

編集後記

今回は特集「蘇れ 千里山会」で報告させていただきましたが、この会の経営状態？から一時は会誌の発行が危ぶまれました。我々事務局の経費節減に対する意識の薄さの非難は逃れようもありませんが、居直るわけではありませんが、その甘さゆえに今まで続いてきたのかな？とも思っております。

色々検討を重ね、また一部の方のご協力も得られ改善を重ね、経済的にはなんとかしばらくは持ちこたえられる目途がたちました。

しかし相変わらず大半が数人の常連会員の方の寄稿で成り立っているのも事実です。これでは中味の問題で先細りとなってしまう。何としても団塊の世代以降の方や新たな方からの寄稿をお待ちしています。否、待っていては集まりませんので私の方から積極的に働きかける必要があります。せめてそのきつかけとなる情報でもいただけたら と思えます。

この会誌からクラシックの世界では有名な延原武春氏が同窓であったことを知ったと報告してくれた方や膝の痛みから医学書で知ったその道の権威である黒澤尚氏が同窓であり、且つ故黒川高秀さんの弟子であった時期もあると知り、その驚きと共に会員名簿から住所を知り直接手紙を出され指示を受けたとの報告を寄せてくれた方もありました。

いずれにせよ会誌が何らかのお役にたてたとすればこれほどの喜びはありません。

その意味からも色々な方々の寄稿をお待ちしています。

(萩原 記)